

2025.6.20

「調査研究成果書」

今年度で二回目となる、鳥羽市地域課題解決調査研究事業補助金の交付を受け、今年6月7日（土）、8日（日）、鳥羽市内ならびに答志島において、名古屋外国语大学外国语学部フランス語学科2年生を対象にした「鳥羽研修」を実施させていただきました。

この研修は、普段の学びであるフランス語学修を生かしながら、今日の日本における地域的、社会的課題に向き合い、共に考える機会を与える機会を、また、将来的な業界研究の一環となる機会を与える機会を、という学科の目的に合致した活動や機会が、幸い、フランス人観光客誘致に力を入れている鳥羽市観光商工課の方々のご協力を得て実現可能となり、とても良い関係のもとで昨年度から実現させていただいているものです。

事前指導ならびに事前の取組みとしては、学生たちは、「観光業」、「海女文化」、「離島」、「漁業」、「海洋漂着物」といったテーマに基づき、鳥羽市の例を含め、これらの業界・分野における現状、課題、展望について調べ、グループで話し合いを重ねて考察し、研修中に行うプレゼンテーションに向けたパワーポイント資料の作成に取り組みました。

二日間の研修中、初日には鳥羽市観光商工課にご所属のカゾ氏による鳥羽市の観光業にまつわるフランス語での講演と質疑応答に続いて、鳥羽市立「海の博物館」を見学するだけでなく、こちらからの依頼に応じて、実際にお二人の海の方ー女性海女ののみの地区で活躍されている方ーから、直接体験談を伺うことができました。その後フェリーで答志島へ移動しましたが、初めてフェリーに乗船する学生、離島の生活を体験する学生もいました。初日の夜には宿泊先にて各グループによるプレゼン発表を行い、全員が各業界における課題や展望について情報を共有すること、考察を深めることができました。なお、課題として指摘されたものの内、例えば、他にも若者の海離れについては、「タイパ」が悪いといつた負のイメージを払拭するため、海の新たなイメージを創出することや、比較的海に関心の高い高校生に向けて情報発信すること、小学生を持つ家庭向けの、鳥羽市の食とアクティビティ、鳥羽市の数多い歴史文化遺産と結びつけたツバーを積極的に制作することなどが、一つの提案として挙がりました。また、同じ東海地方であるにもかかわらず、岐阜県からの観光客が非常に少ない点が指摘され、鉄道網の「乗り換え」「接続」といった課題解決に向け、例えば、岐阜県の主要な駅から直通のバスを試験的に運行し、交通の便を良くする工夫を凝らすことが一つの試みではないかといったアイデアも出ました。

二日目には答志島にて海洋漂着物の収集活動を予定していたものの朝からの

雨で、やむをえず中止の判断に至り、学生からは活動ができず、残念だったというコメントが多くありました。

研修後のアンケートからは、ほとんどの学生がこの研修に「とても満足」と回答しており、普段できない経験ができたこと、事前学習と当日のフィールドワークが結びついたことで、自分ごととして課題を捉えることができたことに加え、予想以上に、鳥羽市の魅力が体感できたといった声が多く挙がりました。

我々教員も、コロナ禍以降、宿泊を伴う行事がなかったこともあり、久しぶりに学生も含め、素晴らしい環境の下で同じ時間を共にすことができ、非常に有意義な研修になりました。フランス語の学びと地域課題と結びつけた活動ができる貴重な場として、来年度も研修の実施に向けて準備を進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、鳥羽市役所観光商工課のみなさまにはこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

名古屋外国語大学

外国語学部フランス語学科

武井由紀